

第7日

令和3年9月6日（月）

午後1時零分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、5番加藤正二議員の質問を許可します。5番加藤正二議員。

（5番加藤正二君登壇）

○5番（加藤正二君） 皆様、こんにちは。5番加藤正二でございます。本日はお忙しい中、傍聴に来ていただいた方々、インターネットで御覧の皆様、ありがとうございます。

新型コロナ感染は第5波となり、全国的に感染拡大しており、福岡県でも連日多数の人の感染のニュースが流れます。今後も感染防止対策をしっかりと実施していきましょう。

さて、今年の梅雨は被害もなく安心しておりましたが、8月に入り停滞前線の影響での長雨で被害が発生しました。自然界のことでどうしようもないことですが、毎年毎年本当に嫌になります。今回も蜷城地区の浸水対策について、前回同様質問させていただきます。

以下は、通告書に従い質問席より質問を続行させていただきます。よろしく願いいたします。

（5番加藤正二君降壇）

○議長（半田雄三君） 5番加藤正二議員。

○5番（加藤正二君） 蜷城地区の浸水対策について、質問をさせていただきます。

今年の梅雨は幸いにして被害も発生せずによかったと思っております。しかしながらお盆の時期に前線の停滞による全国的に広い範囲で豪雨が降り、甚大な被害が出ております。桂川の工事は着々と進んでおり、堤防のかさ上げ工事も揚水場付近、平瀬橋上流もかさ上げになりました。昨年氾濫しました平瀬橋、町橋も道路のかさ上げで対応をしてもらいました。ありがとうございました。

町橋下流の右岸、左岸のかさ上げ工事も10月には着工予定だそうです。完成が待たれます。しかしながら、完成後も地元の住民の方々は心配が絶えません。今年も8月12日は前線の停滞による大雨に見舞われ、桂川の逆流の心配をしなければなりません。筑後川本流の水位はなかなか下がらず、桂川の排水速度が遅くなり、増水してしまいました。

一方、内水の排水路である2号幹線排水路は、桂川に排水しております。この2号幹線排水路に逆流が始まり、水門操作者は2号幹線排水路の水門を閉めなければなりません。毎年毎年同じことです。今年も市の職員の方に来ていただいて指示を仰ぎました。ありがとうございました。その後、筑後川本流の水位は下がり始め、桂川の越水には至りませんでした。

このように、筑後川の水位により桂川の排水能力は変わってきます。自然のことではあると思いますが、筑後川本流の河床を少しでも下げてもらい、桂川の排水能力を高めるということは大事なことだと思います。

平成24年の豪雨の後に長田水門の下流の筑後川本流のしゅんせつ工事をしてもらい、桂川の排水能力が随分上がったと聞いております。このしゅんせつ工事をぜひ国に要望していただきたいと思いますが、どんなでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 国交省には、これまでも各支川からの、支川と申しますのは、筑後川が本川で幹というふうにすれば、その枝であります分かれた川ということでございますが、各支川からの流下能力向上や内水排水能力の向上のためにも、筑後川の堆積土砂のしゅんせつが必要であるということで要望をしてきたところでございます。

今後とも河川管理者として日々点検を行い、必要な堆積土砂のしゅんせつを行っていたくよう要望をしております。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） 要望をできるだけ強く何回もといいますか、一番、要するに桂川も筑後川の水位が下がればスムーズに流れておりますので、今後ともよろしく願いたします。

それから、前回の質問の折、筑後川本流の水位が高い条件でも、桂川の堤防かさ上げを含む改修工事が完了すれば、河川から水があふれることはないのかを、福岡県に聞くということでしたが、その結果をお聞かせください。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） このことにつきまして、県の説明では、桂川では災害復旧に伴う改修工事に加えて堤防かさ上げ工事が実施されております。

これらの工事は、平成29年7月の九州北部豪雨と同等の降雨があつた場合でも、住家の浸水被害を防止することを目標ということにしておりまして、さらに平成24年の7月の九州北部豪雨時の筑後川の河川水位を踏まえて、堤防高差が計画されているということから、工事完了後は一層の安全度が確保されるものと期待しているということが県のほうから説明を受けております。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） これは工事が完了しても、筑後川の水位の動向によって、いや間違いなくあふれませんかというようなことは絶対言えないと思いますので、要望のほうをよろしく願いたします。

それと、もう1つ聞いておりました桂川の長田水門の遠隔操作については、河川管理者と協議をしていくとのことでしたが、その後何か進展はありましたでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 新桂川水門をはじめとします筑後川に注ぐ樋門の管理、これは河川事務所から朝倉市が委託を受けておりまして、その開閉操作は地域の皆様にお願ひしているところであります。地域で水門操作を担っていただいている方々には、筑後

川の出水のたびに大変な御苦勞をおかけてしていると認識しているところでございます。

令和2年の出水時の新桂川水門の開閉操作については、桂川からの越水を可能な限り少なくなるような開閉操作を地域の皆様と一緒に実施してまいりました。朝倉市はこの操作を経験して、遠隔操作を含めて内外水位情報や桂川の河川水位情報の収集等、改善の余地があるのではないかとという観点で、河川管理者と協議を続けているところでございます。

現時点では、改善策を形にするところまでには至っておりませんが、粘り強く改善を求めていく所存でございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 5 番加藤議員。

○5 番（加藤正二君） この水門操作者も、9月2日の西日本新聞でしたけども、命がけで危うい水門操作と、どこもかしこも高齢化で、小城市では75歳の方がこの大雨で死亡されておると書いてあります。

ほんで、ここの中にも遠隔操作が出てきますけども、遠隔操作もなかなか難しいみたいな形がしますけども、今、部長が言われたような、せめて内水・外水の数値が災害本部でもぱっと見て分かるような形を、現地では市の職員の方が10分ごとぐらいに内水が幾ら、外水が幾らということで常に連絡してあって、水門をどうするかということをお願いしておりますので、こっちのほうも、今後やっぱしこういうふうになってくると思うんですね。

水門操作者が高齢化によってだんだんいなくなるというか、若い者がしなきゃいかんけども、若い者は経験がありませんので、ちょっと水位が上がると逆流を心配してすぐ水門を閉めたりというようなこともあり得ると思いますので、どうぞそっちのほうも力強く押し進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それから、次に蜷城地区の内水対策についてですが、まず、長田川の排水能力を高めていくための検討についてお尋ねいたします。

桂川の改修工事が完了し、桂川からの越水はないと仮定したときにも、内水氾濫の心配が重くのしかかってきます。以前からお願いしております長田川の整備の件です。この件に関しましては、地元の下長田の方、朝倉市の職員の方にも同行してもらい、長田川の水の流れを少しでもよくしてもらいたく、長田川の三面張りをしてもらおうと水の流れも随分よくなるのではないかと話し合っ、県土事務所をお願いに行きました。

この地区には1号幹線排水路と2号幹線排水路があります。昔は1号幹線排水路は長田川に注ぎ、その後床島用水に排水しておりました。現在は長田川から桂川への排水になります。2号幹線排水路は直接桂川に排水されます。1号幹線排水路も2号幹線排水路も桂川が増水すれば水門を閉めて逆流を防がなければなりません。そうすると内水は増えるばかりです。この内水の排水対策を考えてもらえると、被害も多少は減るのではないかと考えております。

長田川の床島水門が閉まれば、水は全部桂川に来ます。長田川の床島水門の所からサイ

フォンで佐田川の下を通過して筑後川本流に排水されます。これをサイフォンではなく、直接佐田川に排水すれば排水能力も高くなると思います。当該地は佐田川の最下流であり、筑後川本流へは数百メートルの位置です。こういうことは考えられないのかと思っております。

それと、長田川は平成29年の九州北部豪雨のとき、桂川への排水門が決壊し、その後復旧はしてもらっておりますが、長田川の河川改修は行われておりません。先ほど申し述べました三面張りが適切なのかも分かりません。これ以上のいい方策があれば、地元の人たちに話をしてもらいたいと思います。地元の要望は一方通行で何ら回答はありません。どうなっているのか心配、不安は増すばかりです。

途中経過とか考え方とかを地元の人たちに説明していただければと思います。まずは長田川の改修工事をしてもらおうよう県に強い要望をしていただきたいと思います。地域の皆様が少しでも安全安心を感じてもらえるように強くお願いするものです。この長田川の問題に関しましてはどんなでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 蜷城地区の内水につきましては、地域の皆様が毎年のように御苦勞をされているところでございまして、市としても解決すべき重要な課題だと認識をしております。そのためにも、現在福岡県で進められております河川改修が一日も早く完了することが重要であるというふうに考えてございまして、工事の計画的進捗を福岡県にお願いしているところでございます。

同時に、桂川の河川改修だけでは農地の内水については残ってしまうというふうに聞いてございまして、長田川の佐田川サイフォンについては、市としても議員指摘されることと同様の問題意識を持ってございまして、佐田川を管理する国土交通省にその旨を要望してきたところでございます。

国土交通省筑後川河川事務所においては、本年6月に筑後川学識者懇談会を開催されまして、佐田川については近年の出水状況に鑑み、河川整備計画の変更を見据えて河道による対策及びダム再生を含めた様々な治水対策の検討を進めるというふうな説明をされてございまして、市としては整備計画手続の行方と、佐田川の最下流分についても強い関心を持って国にお願いしていく考えでございまして。

長田川につきましては、長田川は朝倉市下長田より大刀洗町との境界付近を整流しております。これは伏せ越しで佐田川を横断した後に、これと並流して筑後川に合流する延長は約1.5キロの河川です。県管理分は715メートルほどだというふうに聞いてございまして、これは、長田川の成り立ちについて文献を調べてみますと、江戸時代の後期に農地の湿抜きの解消のために整備された河川ということで文献には表れております。

このことありまして、県のほうのこの整備の内容の返答としましては、湿抜きの工法ですが、三面張りの工法では、この湿害の効果に支障が出たりするということもござい

して、県の回答としましては、河川の三面張りの概念はまずないということで、これを行ったとしても効果が期待できるかは不明であるというような回答でございます。

先ほど申しましたような要望と併せて強くこれからも河川改修は要望をしていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） 三面張りは効果がないということであれば、ほかに何かいい方法、こういうことをやれば排水能力が上がるだとか、そういうことは県のほうは全く提案みたいのはないんでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 先ほどからの私の答弁の中で、長田川の対策としましては、佐田川の河床を下げて長田川からの流入がスムーズにできるよう国に強く要望をしているというところでお話ししましたし、また、サイフォンの改修工事も併せてこれからも要望をしていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） 分かりました。じゃ、今後も県のほうに強い要望でよろしくお願ひしたいと思います。

次に、県道14号線、鳥栖朝倉線バイパス工事に係る排水対策についてです。

県道14号線鳥栖朝倉線バイパス工事が計画されております。バイパス工事そのものには地元の人でも何の問題もありません。県道14号線バイパスは現在の道路の北側に新しくできると聞いております。

下長田地区を過ぎると新しく佐田川にできる橋まで徐々に勾配をつけて上がっていくそうです。そうすると水の流れが変わって、八重津地区付近からの水が1号幹線排水路、2号幹線排水路付近に今まで以上に内水が集中しやすくなります。

下長田地区内の道路は水没する時間が早くなり、内水が引きにくく、浸水時間が長くなるのではないかと、そうなる被害も大きくなるのではないかと、地元の人たちは心配してあります。新しくバイパスができたなら内水の動きはどうなるのか、それならばどんな工事をして排水対策を講じるのか、当然計画されていると思いますので、そのことを地元の人たちに分かりやすく丁寧に説明をしていただきたいと思っております。

県道14号線、鳥栖朝倉線バイパス工事の計画の概略はお聞きしておりますが、地元の人たちの意見を再度聞いてもらい、先ほど申し述べました心配ごとの解決策も、地元の人たちに分かりやすく説明してもらいたいと思います。県道14号線バイパス工事に関しての考えをお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 県道鳥栖朝倉バイパス工事につきましてですが、これにつきましては、これまでたびたび県のほうが地元説明会を行ってきておりますけれども、

近年の豪雨による蜷城地区の内水被害、これを考慮いたしますと道路建設に関連する内水への対策について、これについては十分考慮する必要があるというふうに考えておりますので、地元への説明も含めて県としっかり協議をまいります。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） 地元の人でも何度か説明は聞いてあると思いますが、先ほどの内水の問題とかまだまだ聞きたいことあると思います。それで、十分に連絡を取ってもらって、地元の人に、先ほど言いました分かりやすく丁寧な説明をしてもらい、いろんな意見を聞き取って早く進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

とにかく蜷城地区は水の問題が最大の課題であります。地域の全員の人たちが安全で安心して暮らしていただけることを望んでおられます。どうぞ今まで以上に協議を重ねてもらい、今まで以上の強い要望をしていただきますようお願いをいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 5番加藤正二議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時40分に再開いたします。

午後1時27分休憩